

## ◎食のリスクコミュニケーション・フォーラム 2016 第3回 『消費者の食の安心につながるリスクを議論する』

【開催日】 2016年8月28日(日) 13:00~17:50

【開催場所】 東京大学農学部フードサイエンス棟 中島董一郎記念ホール

<http://www.a.u-tokyo.ac.jp/campus/overview.html>

【主催】 NPO 法人食の安全と安心を科学する会 (SFSS)

【共催(協賛)】 一般財団法人社会文化研究センター

【後援団体】 消費者庁、東京大学大学院農学生命科学研究科附属食の安全研究センター

【定員】 先着50名

【参加費】 3,000円／回 (当日会場にて現金で申し受けます)

\*メディア関係者、後援団体関係者、SFSS会員は参加費無料

【参加申込み】 [http://www.nposfss.com/form\\_riscom2016.html](http://www.nposfss.com/form_riscom2016.html) (8月25日で受付終了)

\*4回シリーズになりますが毎回お申込み／事前登録が必要です。

【お問い合わせ】 SFSS 事務局まで

(TEL/FAX : 03-6886-4894、email : [nposfss@gmail.com](mailto:nposfss@gmail.com) )

【各演者の講演要旨】

① 蒲生恵美 (日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会 (NACS))

『機能性食品とどうつきあうか (消費者教育のあり方)』

2015年度 PIO-NET 危害情報で、健康食品は10歳代～80歳代のすべての年代で上位10以内にランクインした。教育において健康食品のリスクを伝える難しさに、利用者の欲望がある。人間は対象への欲望が強いと、対象が抱えるリスクを低く認識すると同時に、対象がもたらしうるベネフィットを高く認識する傾向にある。健康食品を安全かつ適切に利用するには、健康食品の安全性と機能性を正しく理解することが必要だが、そのためにはどのようなアプローチが必要なのか。そもそも健康食品を食生活にいかに位置付けることが適当なのか。これらの課題について機能性表示食品制度を中心検討する。

② 小出 薫 (株式会社明治)

『食品事業者から見る安全とリスクに関するコミュニケーションのこれから』

国内外でリスク像に少しづつ変容が。食品事業者にも行政との「対話」は勿論、消費者を含む他のステークホルダー(達)との目的も形も多様な対話機会が生じるだろう。古典的なリスクの枠組みを超えて、「安全とリスクに関する持続的なコミュニケーション」の場や「リスク教育」の必要性も議論されてきた。依然リスクとの間に距離も在るが、食品事業者は実は、現実の Hazard 混入とその管理、低減の手段と可能性、さらに残存するリスクを良く知るステークホルダーでもある。一方国内社会は、話題となるリスクには厳しいシャットアウトを志向し、その状態に意外に安心している。事業者がリスクを語ることは、この国の適切な Risk Governance の発展に、あるいは Sustainable な生産と消費が行われる社会の形成にどの様に役立つか、混乱を招くだけか？ご意見も伺いたく。

③ 竹田 宜人 ((独)製品評価技術基盤機構化学物質管理センター)

『リスクコミュニケーションの失敗を考える』

今や、リスクコミュニケーションはリスクガバナンスにおいて重要なステップと認識され、意思決定プロセスの一つとして市民権を確立した。その結果、食品安全、防災、原子力、化学安全、医療など様々な分野でガイド、方針、あり方など、根拠とすべき考え方が文書化されている。それぞれの分野では、どんな指標でリスクコミュニケーションを評価し、その失敗の形をどのように描いているのだろうか？本講演では、リスクコミュニケーションの目的とその効果を測る指標について、参加者とのディスカッションを通じて考えていく。

【本フォーラムの主旨】

毎回、食のリスクに詳しい有識者をお迎えし、講師3名（Q&A含み60分）+総合討論（90分）：13:00～17:50（休憩20分）の構成とします。総合討論では、消費者の「食の安心」につながるリスクコミュニケーションについて、会場からの質問に講師が回答する形で議論します。

以上